

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか。」の問いに対する肯定的回答は92.5%で、全国を11.3ポイント上回った。「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか。」の問いに対する肯定的回答は92.6%で、全国を6.5ポイント上回った。児童の自尊感情が培われてきていると考えられる。今後も、児童の良いところを認め、励ましながら指導や支援をしていきたい。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。」の問いに対する肯定的回答は95.1%で、全国を14.2ポイント上回った。話し合い活動を通して、自分の考えが深まっていると感じている児童が多いと考えられる。今後も、一人一人の考えを大切に授業を展開していきたい。

○国語に関する質問に対する肯定的回答もすべて全国を上回った。特に、「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。」の問いに対する肯定的回答は91.4%で、全国を14.5ポイント上回った。今後も、国語の授業を通して、すべての授業の基礎となる言語活動を展開していきたい。

○算数に関する質問に対する肯定的回答も、いずれも全国を上回った。特に、「算数で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか。」の問いに対する肯定的回答は86.4%で、全国を9.9ポイント上回った。今後も児童の算数に関する興味・関心を高めるような授業を展開していけるよう、教材研究に励んでいく。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、勉強をしますか。」の問いに対し、「1時間より少ない」という回答が48.1%あり、全国より14.1ポイント高かった。家庭での学習習慣は身に付いてきているが、時間的に目標に達していない。授業で学習した内容をさらに定着させるため、家庭学習に対する課題を増やし、家庭学習の必要性を継続して促す必要がある。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、読書をしますか。」の問いに対し、「30分より少ない」という回答が65.5%あり、全国を5.3ポイント上回った。読書にふれる時間を増やしたい。

宇都宮市立横川中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知をし、保護者と連携をとりながら、家庭学習・自主学習への理解・協力を呼び掛けることで、基礎・基本の着実な定着に向けた指導を行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強してる」の項目の肯定的に回答した児童の割合は77.8%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に本時のめあて、最後にまとめを板書して確認することで、児童一人一人が本時の学習内容を振り返り、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組めるようにしている。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の項目の肯定的割合は、92.6%である。
話し合い活動の充実	話し合い活動に使う話し方の例を学校で統一を図るようにすることで、各学年・各クラスの実態に応じた話し合い活動を行い、対話を中心とした深い学びや広い学びを進めることができるよう指導している。	「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」の項目の肯定的割合は、82.7%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「新聞を読んでいる。」の質問に対して、「ほぼ毎日読んでいる」と答えた児童の割合は、全国に比べて0.8%下回っている。	国語や総合的な学習の時間をはじめ、授業での新聞の積極的な活用	国語や総合的な学習の時間をはじめ、各授業において新聞を積極的に活用することで、児童一人一人により興味や関心をもたせるとともに、調べたりまとめたりすることを通して、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。